

子供たちが森林に触れ合う チャンスを増やしていく

サン・フォレスター（京都府）

森林を健全に保ち、
自然の恵みを楽しむ

京都の森林ボランティア、サン・フォレスターが設立されたのは平成八年。京都府と相楽郡山城町の交流の森林づくり事業としてスタートした森林ボランティア団体です。平成一〇年には町から独立し、現在の会員数は三五名。発足当初から高田明さんが会長をつとめています。

「サン・フォレスターは京都府の南部、木津川市（平成一九年に山城町、木津町、加茂町が合併）で活動を行っている森林ボランティア団体です。活動エリアは山城町森林公園内で、植林から伐採、路づくりまで林業に関わることはすべて行っています。当初は鋸や鎌などの道具しかなかったのですが、いろいろと思索し、日本財団からの助成金と会員の方々にも尽力していただき、チェーンソー、刈り払い機、運搬機、薪割り機やチップパーなどを取り揃えて作業をしています。現在は月に二回、活動を行っています。下草刈り、枯損木の整理、植栽といった山林の保全活動のほか、お祭りなどのイベントでは木工教室も開催しています。大阪や奈良から来てくれる方も多いんですが、いちばん大変なのは夏の下草刈りですね。みなさん、汗だくになってやってくれています」（高田明氏）

京都府の最南端の市である木津川市は、京



サン・フォレスターのメンバー

都、大阪、奈良のベッドタウンでもあり、都市が近くにありながら、豊かな自然が広がっている場所。そんな中で高田さんは多くの人たちに森に親しんでもらい、山の大切さを知ってもらいたいと考えています。エリア内に生息する動植物や土壌の調査も行っています。

「珍しい鳥も多く生息しているんですよ。わたり鳥など一〇〇種類ぐらいいると思います。猿、イノシシ、タヌキ、キツネ、鹿もいます



森林での作業



木工教室を開催

し、自然に恵まれているので、ぜひ、多くの人に触れてほしいですね。平成一九年からは京都モデルフォレスト協会に加入し、府内のボランティア団体の方々とも交流を深めています。動物や植物の観察はもちろん、春や秋には、木津川市の名産であるタケノコ堀りや栗拾いも楽しみのひとつです」(高田明氏)

こと。以前は毎年、夏になると小学生たちを集めて、木を伐ったり、夜には灯りを持たずにナイトハイキングを行う森林体験(きこりっこ)を行っていました。現在は府内の小学校の先生の要請を受けて、子供たちと一緒に山に入っています。

「つい最近も小学一年生を連れて、ドングリ拾いをしたり、木の名前を教えたりしました。来年の春には地元の中学生在が環境教育の一環として八〇名ほど参加する行事が予定されています。実際に木を伐るのは難しいので伐った木を運搬したり、薪を割ってもらおうと考えています。山での仕事を続けながら、子供たちを森林の中に誘って自然の豊かさに触れてほしいと思っています。それがいちばんの願いですね」(高田明氏)

data

〒 619-0214

京都府木津川市木津南垣外 110-9

木津川市建設部農政課内

☎0774-86-5284